



〈左〉「毛山漫録」(毛利家文庫29風説52)・〈右〉「於変雑抄」(毛利家文庫29風説40)



ツカウ・イカス ③

落書(らくしよ)と風刺画

《落書》

「落書」とは、公然と言えないことや政治・社会を風刺した文や絵などを、匿名で路傍や塀など人目につく所に置いたり貼ったりした紙のことで、とくに幕末期の江戸や京においてさかんに行われました。

落書は町人たちの不満や好奇心のほけ口ともいえましたが、禁制が強化されるにつれ、その表現には工夫が凝らされました。たとえば、人形浄瑠璃などの民間に広く知られた口説きの文句を変えて内容や感情を伝達したり(替え文句)、批判の対象の人物を有名な物語の登場人物に見立てたり、数え唄や経文の形をとって覚えやすく伝えやすい語呂にしったりといったことが行われました。その中でも、よく使われた手法が、「大名を家紋で隠喩する」という手法でした。落書は、「情報の送り手・受け手双方の暗黙の了解によって成立する情報伝達の手段」ともいえるでしょう。

《毛利氏の諷刺画》

たとえば上写真(右)を見てみましょう。一見して鳥のように見える姿ですが、顔とく

ちばしは、毛利家の家紋「一に三星」をかたどっています。そして、その横には、「人気鳥 此鳥爪をかくす」と記されています。幕末期、長州藩は京でとても人気があり、人々の長州藩に対する期待感を表現した落書といえます。

《松平容保の落書》

それに対して、左の落書は、京都守護職の松平容保を怪獣(「怖獅子」)の姿で諷刺しています。その姿には「会津」の文字が隠され、橋(一橋家を隠喩)に乗っています。会津から決死の覚悟で赴任し、公武のために周旋した彼に対し、おそらく過激な尊王攘夷派が自分たちの立場を有利にすることを意図して作成した、情報操作のための落書でしょう。全国で多くの写しが確認できます。

このように、落書には、後世からの歴史的評価とは必ずしも相容れない内容をもっているものも多いですが、「情報」という観点からみれば、当時の人々は、落書を通じて、それぞれの立場から情報発信・情報伝達をおこない、また情報操作を意図したといっていいて良いでしょう。

山口県文書館
YAMAGUCHI PREFECTURAL ARCHIVES

- 山口県文書館について
- 文書を探す方へ
- 教育に携わる方へ
- 保存に携わる方へ
- 行事・講座案内
- デジタルアーカイブ
- 絵図・地図
- 写真・絵はがき
- 近代刊行写真帳類
- ポスター・リーフレット
- 文書・記録
- 高画質画像ダウンロード
- 当館蔵の指定文化財
- WEB版 明治維新資料室
- 当館のデジタル読み物 ←

本文で触れた松平容保の落書については、当館のWEBページにある「デジタルアーカイブ」から、「当館のデジタル読み物」の過去のアーカイブズウィーク解説シート「文書館動物記」のNo.19「怪物にされた松平容保」をご参照ください。

「於変雑抄」にみえる幕末～明治初年頃の風刺画

「於変雑抄」(毛利家文庫29風説40)は幕末～明治維新期のいろいろな事柄を書き上げたもの。表紙に「忘物堂主人」(不詳)と署名があります。会津戦争、新政府の職階や規則・兵制・学校規則に関する事等、明治2～3年ころの記事が多く収められています。そのなかに、以下のような風刺画があります。さまざまな人や職種を「鳥」になぞらえて諷刺しています。



【運上鳥】(運上取り)

一名爪長鳥、又掻キ鳥(掻き取り)
世の人は是を「上見ぬわし(鷺)」といふ、但し両頭の鷺を恐るるよし

- *「運上取り」は、税を取り立てるという意味か。「掻き取り」も同様。
- *「上見ぬ鷺」：鷺は他の鳥を恐れず、警戒のために空を見上げる必要がない。何も恐れはばからぬ、威張ったさまをいう。冠をかぶっており、明治初期の高級官吏を隠喩している。勅任官・奏任官の服装についての記載が「於変雑抄」にある。
- *「両頭の鷺」は不祥だが、「双頭の鷺」を紋章とするロシアを意味するものと思われる。



【かすり鳥】(かすり取り)

一名あけ足鳥、又の名せんと鳥
北国に居るを地取と云
此鳥日本を呑んと思ふ

- *「あけ足鳥」は「揚げ足取り」の意か。
- *「せんと鳥」は不祥。
- *「かすり取り」「地取」は欧米列国が日本の国土を狙うの意。「北国に居る」はロシアの寓意であろう。



【酌鳥】(酌取り)

一名いのち鳥、又銭鳥
此鳥官員の油を吸取を好む

- *「いのち鳥」は「命取り」、「銭鳥」は「銭取り」の意。
- *「官員(公務員)の遊興や、それにたかる飲食店の酌婦(足は三味線の撥[ばち])、ないしそれによって身を持ち崩す公務員を風刺したものと思われる。



【月給鳥】(月給取り)

一名小遣鳥
又まひなひ鳥、或(あるいは)日雇鳥

- *「まひなひ鳥」は賄賂=まいない取りの意。
- *「日雇鳥」は下級吏員を風刺したもの。



【窮艱鳥】(九官鳥)

旧名知行鳥、切米鳥 今改如此
此鳥あごをつるしたがるといふ

- *「知行鳥」「切米鳥」は「知行取」「切米取」で、武士階級のこと。維新後に困窮し、生活が困難な状態になっていることを諷刺したもの。
- *「あご(顎)をつるしたがる」は、あるいは借金で首が回らなくなっていることへの皮肉か。



【剥鳥】(剥ぎ取り)

又ハヒルトンビ
一新後甚多し、専ら夜ナタタ出、又ハ昼も出て、人のものを取り食ふ

- *「ヒルトンビ」(昼鷹)は、「トンビに油揚げをさらわれる」ことわざがある通り、人間に慣れた場合、隙を狙って人間が手に持っている食べ物などまで飛びかかって奪うことのある鷹を強盗にたとえた。
- *「世上不安で、犯罪が多いことを風刺したもの。